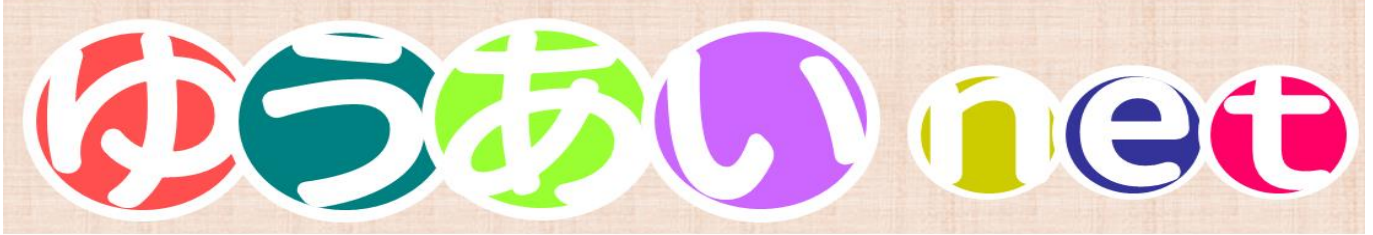


佐賀県の視覚障害教育を結ぶ



朝夕の涼しさがあっという間に寒く感じられるようになった、10月末。今年は夏がとても長く、心地よい秋はあっという間に過ぎ去ってしまいそうです。目を酷使している児童生徒の皆さん、先生方、体調はお変わりありませんか。お体ご自愛ください。

障害者手帳とサービス

視覚障害があり、身体障害者手帳を持っている場合、公的な福祉制度やサービスを利用することができます。以下に簡単にまとめてみました。

【補装具の支給】

補装具の代表として視覚障害者安全杖（白杖）や眼鏡、義眼があげられますが、その仕様も様々です。利用者の負担については市町により決定されます。購入の検討をされる時は、必ず事前に市町の福祉窓口にご相談ください。



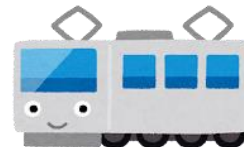
【日常生活支援用具の給付・貸与】

日常生活用具として一例をあげると、音声式体温計、音声式体重計、点字器、点字タイプライター、視覚障害者用ポータブルレコーダー、視覚障害者用拡大読書器などがあります。申請が適切であると認められると、購入の際に補助が受けられます。

また、マルチメディアデイジー図書などを貸出できるサービスがあります。佐賀県立視覚障害者情報・交流センター“あいさが”（旧 佐賀県立点字図書館）に問い合わせ、図書利用を楽しんでください。

【運賃・料金の割引などについて】

- ・JR 運賃（割引率 5割）
- 松浦鉄道・甘木鉄道運賃（割引率 5割）
- ・九州郵船運賃（割引率 基本運賃の5割）
- ・タクシー運賃（割引率 メーター器表示額の10%）
- ・バス運賃（割引率 普通運賃の5割）
- ・航空運賃（航空券購入の際に提示すると運賃の割引があります。ただし、すべての航空会社ではなく、主に国内線のみです。割引額などは、各航空会社に問い合わせください。）



【県立施設の観覧料等の減免】

県立施設の観覧料等が減免される場合があります。詳しくは、県立施設受付にお問い合わせください。これらの福祉制度やサービスは身体障害者手帳の等級や居住する市町によって違いがあります。詳しくは各市町の福祉課にお尋ねください。

視機能について その1

眼の働きを視機能といいます。視機能には、視力、視野、光覚、コントラスト感度、色覚、調節、眼球運動、両眼視などがあります。ただ単純に、視力だけをいうものではありません。

今回は、その中の「視力」と「視野」についてお話ししたいと思います。

視 力

視力は、どれだけ細かいものを見分けることができるかを表しています。視力はいくらうじて見えるランドルト環の切れ目が眼に対してなす角度の逆数で表します。見分けられる切れ目の大きさと視力は反比例の関係にあることから、右の図-1のように、検査に用いる指標の切れ目の大きさは視力の値の差が同じであっても、等間隔にはなっていません。視力が低いほど、それぞれの視力で見分けられる切れ目の大きさが極端に変わり、見えにくさが急激に増加することを表しています。

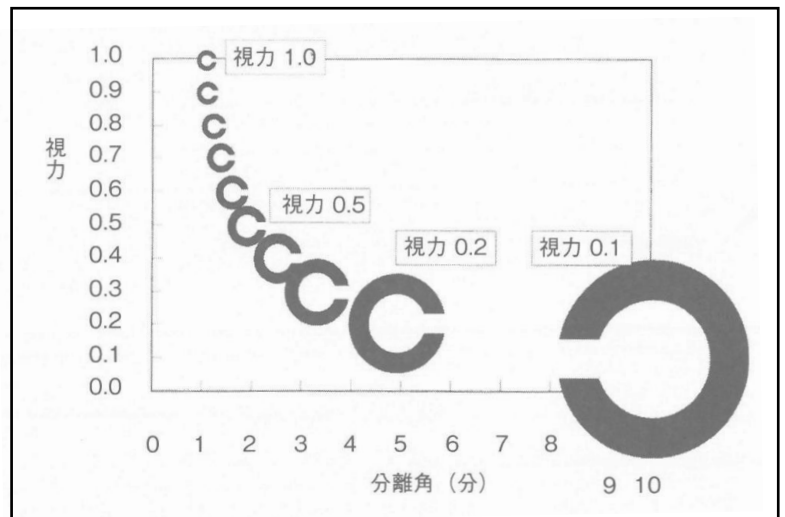


図-1 見分けられる分離角と視力の関係



佐賀県立盲学校
公式 PR キャラクター
「さもー」

視力 1.0 と 0.9 では見分ける分離角の大きさにあまり違いはありません。しかし、視力 0.2 と 0.1 における分離角の違いは 2 倍と大きくなっています。これは視力が低く見分けるのに必要な分離角が極端に大きくなるということを示しています。視力が低ければ低いほど、想像以上に見えづらさがかかえていることが分かります。

通常の学校の視力検査で C、D 判定の児童生徒は、黒板や廊下ですれ違う友達の顔もピンぼけ状態で見えています。

このことを把握した上での配慮をお願いします。

視 野

視野は、眼を動かさずに見ることのできる範囲です。視野は、図-2のように、視線が向いている位置からおよそ鼻側へ 60 度、耳側へ 100 度、上方 60 度、下方へ 70 度まで広がっています。

ただし、文字や物をしっかり識別できるのは中心半径 3 度以内の視野で、20 度を超えると物のあるなしが分かる程度の解像力しかありません。

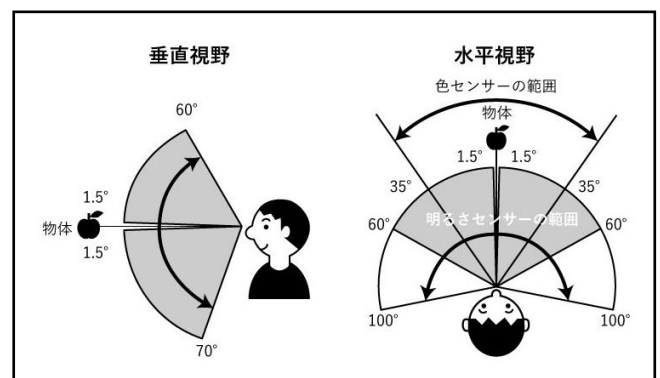


図-2 垂直視野と水平視野



正常視野



視野10度



視野5度



中心暗点

視野が障害されると、日常生活全般に困難が生じます。上の写真のように視野が狭くなると何が見えているのか分かりません。腕を伸ばして握ったこぶしの大きさが視野10度くらいで見える大きさです。視野障害は数値で表すことが難しいため「どの程度」の困難が生じているのか説明するのが容易ではありません。それで、自身の困難を理解してもらえず苦しんでいる場合や、見えていないことに本人も気づいていない場合もあります。

視野が狭くなると足元が見えづらく歩くのが怖かったり、頭上の物に頭をぶつけたり、机の上の消しゴムが見つけれないなど、すぐそばにあるものが見つけれずに困ったりすることがあります。

中心暗点があると、視線を向けた先が見えにくいため、読み書きが非常に困難になります。視線を中心から少しずらして見やすい場所を見つけることで見え方の困難を補います。



佐賀県立盲学校
PRキャラクター

弱視児童生徒は自分の見え方をよく見える状態と対比させて認識したり言語化したりすることが困難なため、見えているかと聞くと、「見えているよ」と答えてしまうことがあります。周囲が行動観察などから見え方の困難に気づき、必要な配慮を整えることが大切です。

〔参考文献〕

「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」 香川邦生・千田耕基 編 教育出版
 「ポイントマスター!ロービジョンケア外来ノート」 神戸アイセンター病院 編 三輪書店
 「視覚障害教育入門 Q&A」 全国盲学校長会 編 ジアース教育新社

佐賀県立盲学校

電話 (0952) 23-4672

FAX (0952) 25-7044

代表メール mougakkou@education.saga.jp

お気軽に御連絡ください。巡回相談の依頼も受け付けています。